

報告

第63回粘土科学討論会（埼玉大会）

小口千明*・黒川秀樹*・長谷川直紀*

* 埼玉大学大学院理工学研究科

〒338-8570 埼玉県さいたま市桜区下大久保255

第63回粘土科学討論会（埼玉大会）は、令和元年9月10日から9月12日の3日間、埼玉大学全学講義棟1号館を講演会場として開催された。討論会では、ダイバーシティ推進に関する特別招待講演1件と事前準備で行われたアンケート結果の報告とパネルディスカッション、「水惑星と粘土」をテーマとしたシンポジウムの講演が5件、口頭発表38件、ポスター発表32件が行われた。討論会への参加登録者数は合計132名であり、一般会員は正会員（共催学会員含む）94名、学生会員（共催学会員含む）16名、非会員一般が10名、非会員学生が12名であった。

討論会前日の9月9日には、13時から17時30分まで粘土科学者若手の会が開催され、口頭発表とポスター発表が行われた。討論会初日は9時から受付を開始し、9時30分からA会場（207教室）およびB会場（205教室）において一般講演が行われた。11時30分からは301教室において山崎敦司会長を議長として総会が行われた。会場入り口では出席者数を把握するため、討論会の名簿を用いたチェックが行われた。総会ではすべての議案が提案通りに採決された。総会終了後、各賞の授賞式が行われ、山崎会長から賞状と記念品が手渡された。令和元年度の各賞の受賞者は次の通りであった。学会賞：中戸晃之会員、功績賞：高木哲一会員、奨励賞：鈴木康孝会員、技術賞：野口幸紀会員、論文賞：四辻健治氏・舘幸・河村雄行氏、有馬立身氏、佐久間博氏、M. Koike氏、Y. Asakura氏、Y. Kuroda氏、H. Wada氏、A. Shimojima氏、K. Kuroda氏、学術振興賞：西尾謙吾会員、西木悠人会員、秋田郁美会員。

13時00分からは、特別企画およびシンポジウムが開催された。特別企画では、招待講演として、埼玉大学副学長の堀田香織氏による「ダイバーシティ推進の意義：埼玉大学における取組事例」の講演が行われた（写真1）。

続いて、本企画の準備を兼ね、日本粘土学会の実態を把握するために行われたアンケートの結果が鈴木憲子会員より報告された。この報告はもともと、アンケート実施の準備で主導的働きをされた手束聡子会員が報告予定であったが、急なご事情により演者交代での報告となった。さらに、他学会ではあるが粘土科学とも専門分野が近い日本結晶学会で活躍されている丸山美帆子氏（大阪大）による話題提供があり、それに続く形でパネリスト（佐藤努会員、井上綾子会員、江口美陽会員）からの生の声を聴く機会があった。このパネルディスカッションの進行は後内貴胤会員と鈴木憲子会員が務めた。

15時30分から開始されたシンポジウム「水惑星と粘土」では、玄田英典氏による「太陽系の成り立ちと水と粘土」、白井寛裕氏による「火星の海と探査と粘土」、福士圭介会員による「火星の古環境と水質と粘土」、関根康人氏による「氷天体の海と塩と粘土」、渋谷岳造氏による「生命の起源と水素と粘土」の5件の講演が行われた。シンポジウム内容の詳細は、そちらの報告に譲りたい。

シンポジウム終了後の18時より、埼玉大学第2食堂において懇親会が行われた。参加者は当日申込みを含めて、合計80名であった。小口千明実行委員長の司会のもとで進行した。開会に際し、埼玉大学の山口宏樹学長より祝辞をいただいた。続いて山崎敦司会長より今後の

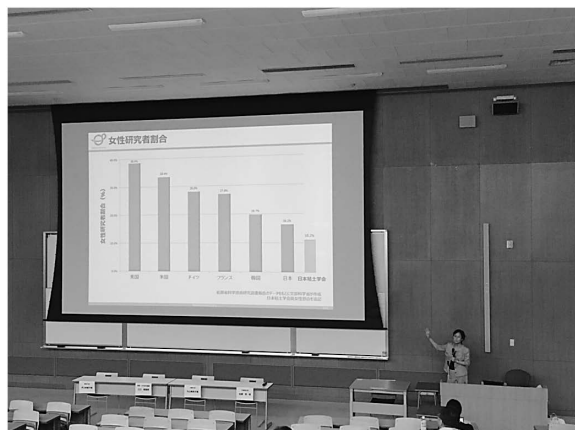


写真1 特別企画での招待講演の様子

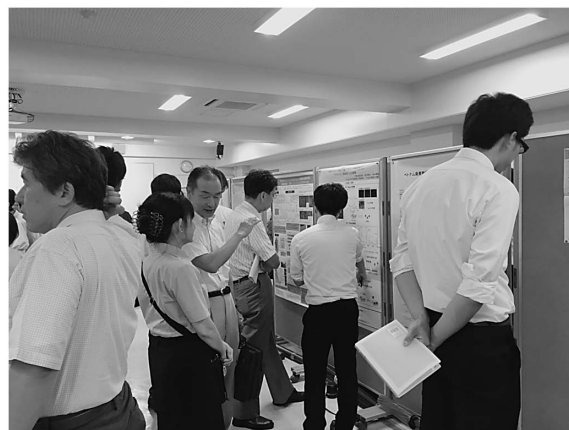


写真2 ポスターセッションでの活発な質疑応答の様子



写真3 和銅開珎モニュメントをバックに記念撮影

粘土学会の豊富が語られた。佐藤努常務委員長からは乾杯の発声をいただいた。また、招待の丸山美帆子氏と、次回第64回大会（信州大学）の樽田誠一次期実行委員長からも一言いただいた。最後に、埼玉大学工学部長でもある黒川秀樹実行委員より閉会の挨拶をいただき、盛会のうちに懇親会は閉会となった。

討論会2日目は、午前中（9時から11時45分）と午後（15時15分から16時15分）の2回に分けて、初日と同じ2会場で一般講演が行われた。昼食をはさんで13時から14時50分まで205教室においてポスター発表が行われた（写真2）。

3日目には見学会が開催された。参加者およびスタッフ合計24名が、8時30分にさいたま新都心駅に集合した。まず、三菱ミネラルコレクション（原則非公開）と造幣さいたま博物館とを見学したのち、中型バスに乗り秩父方面に向かい、和銅採掘露天掘跡を見学した。元号が「平成」から「令和」に代わり、造幣局では記念硬貨の準備もなされていたが、日本最古の流通貨幣と言われ

ている「和銅開珎」も西暦708年にこの地で採掘された自然銅が朝廷に献上され「慶雲」から「和銅」に元号が変わったことに因んだ命名名であるという。

その後、おがの化石館、ようばけの崖、埼玉県自然の博物館、長瀬岩畳、紅簾石片岩などを見学した。秩父ジオスポットでもある「ようばけの崖」と「紅簾石片岩」は遠望もしくは車内からの写真撮影のみの予定であったが、参加者の強い希望にバス運転手が配慮してくださり、現地まで赴くことができた。また、「おがの化石館」では思いがけずミニ化石のお土産をいただくことができた。一部の参加者は飛行機の出発時刻の都合により電車で都心に向かったが、バスはJRさいたま新都心に帰り散会した。

第63回粘土科学討論会の直前には実行委員長に不幸があり、実行委員およびスタッフをはじめ、理事の皆様にも多大なご協力をいただきました。巡検を含めたすべての日程を、特段のトラブルもなく終えることができたことに感謝申し上げます。